

クリーンな焼却

ごみを焼却する温度は850℃という高温で焼却することにより、ダイオキシン等の有害物質発生を少なくしています。焼却されたごみは灰として施設に一時保管されますが、同時に発生するガスは溜められないため、大気中に放出する必要があります。ガスの中に含まれる微細な灰も排ガス処理設備によって集められるため、厳しい基準で処理された排ガスが59mの煙突から放出されています。

エネルギーの有効活用

ごみ焼却によって発生した熱エネルギーを発電や給湯に利用しています。新たに蒸気タービン発電機が備えられ、施設内で必要な電力をほとんど賄っています。また、沸かされたお湯は足湯で利用されます。LED照明や省エネルギー機器を多数採用し、ごみ発電も有効に活用しています。

安定した焼却

施設には1日60tのごみ焼却が可能なストーカ式焼却炉が2つあります。60tの焼却炉が2つで合計120t（ごみ袋2万個分）のごみを焼却する能力があります。1日に運ばれてくるごみの量は約80tです。一見、施設能力が過大に感じられるかもしれませんが、焼却炉は定期メンテナンスで使用できない期間があるため、2つの炉が備えられています。



ゴミクレーン

小学生に人気の見学コース

施設敷地内に入っても臭いはありません。臭いについてはプラットホームの出入口に風（エアカーテン）を発生させ、漏れないようにしています。ごみは一度ごみピットに集められ、焼却炉で焼却されます。施設内の設備はコンピュータで自動化され、運転状況は監視カメラで確認することが出来ます。また、ごみピット内に投入されるごみとごみ収集車の状況は中央制御室からも確認でき、ごみピット内の攪拌作業も目視で行うことが出来ます。クレーンによって持ち上げられたごみが一度に落ちる様は豪快の一言です。クレーンで攪拌することで袋からごみを効率よく取り出し、ごみ質を均一にします。焼却後に残る焼却灰は温度を下げた灰ピットへ。煙と共に出て行



自転車発電機（見学コース内）

きかねないほど細かい飛灰は集塵器によって集められます。最終的に水蒸気が煙突の白煙となって外へ排出されます。

見学コース途中には自転車発電機や足踏み式発電機、ごみ分別クイズなど、体験ができる啓発コーナーがありました。ごみ分別の重要さと周辺環境への配慮を実感できました。

まほろばの湯

クリーンセンター入り口正面、この施設の特徴の一つに「足湯」があります。

この「足湯」は、クリーンセンターで発生したエネルギー（排熱）を再利用してできた施設です。温泉ではありませんが、ファインバブル（マイクロンの空気の泡）が入れられており、汚れを隅々まで落とす洗浄効果があると同時に、お湯を循環させ殺菌する機能も備えています。左記の時間帯、どなたにでも開放しています。タオル持参でお気軽に安らぎの場として活用になれます。

みんなの足湯です

キレイに、気持ちよく
利用しましょう

利用時間 毎日9時～17時まで
足湯温度 通常42度 夏場39度
※ただし、定期点検時は休湯
■問い合わせ 863・1177



委員長のコメント

今年3月に竣工し、4月から稼働している「まほろばクリーンセンター」を取材できることになり、楽しみにしながらその日を待ちました。

新しい建物は、名前のとおりクリーンで、空に向かってそびえ立つ2本の煙突は、周りの風景にすっかり溶け込んでいます。新しい煙突は、比江廃寺塔の高さに当たる32mの所で色が変わっていることを、今回の取材で知りました。また、道路から見ることで、南国市・香南市・香美市を象徴する鳥・花・木の色鮮やかな絵も、施設への親しみを覚えます。一度は来たいと思っていた「まほろばの湯」と書かれた足湯棟も、入り口正面にあります。

新築の香りがする研修室に招かれ、香南清掃組合の事務局長の山本さん、施設管理係長の長野さんから説明を受けました。その中で、詳細は知らなかったなあ、と思うことがいくつかありました。

まず、ごみ処理には莫大なお金がかかること。焼却炉は850度の高温になること。出されるごみの半分は水分であること。最後に残る灰は、徳島県の民間業者に依頼して処理をしていること。一人一日当たりのごみ排出量は、三つの市の中で南国市が一番多いこと。等です。

我が家から出すごみの水分も、もっと努力すれば減らすことができるはず。そうすれば、焼却するごみが減り、経費として使われる税金も少なくて済む。そんなことを思いながら、説明をお聞きしました。安全に、ごみを処理する最新鋭の設備を見学させていただき、できるだけ長く、順調に稼働するようにと願いながら、取材を終えました。お忙しい中、丁寧に対応していただき、ありがとうございました。

最後には、足湯につかり、取材の疲れを癒しました。